

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第2委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成27年5月29日(金曜日)		開 議 午後 1 時 30 分 閉 議 午後 2 時 50 分
出席委員	湊 小島 菱田 並河 福井 齊藤 藤本 <西口議長>		
出席理事者	[産業観光部]山田部長 [ものづくり産業課]野々村課長、三宅商工係長		
出席事務局	三宅主任		
傍聴者	市民 名	報道関係者 1 名	議員 名

## 会 議 の 概 要

13:30

### 1 開議（湊委員長あいさつ）

（事務局日程説明）

### 2 案件

[ 産業観光部入室 ]

（1）地方創生関連事業及び商業活性化計画について（行政報告）

[ 産業観光部長あいさつ ]

[ ものづくり産業課長より資料に基づき説明 ]

13:50

[ 質疑 ]

< 齊藤委員 >

一過性にならないようカード化にすることで、データ分析、効果検証が可能となることから、大変いいチャンスであると考えているが、これらで得られたデータ等をまちづくりに生かす考えは。

< 産業観光部長 >

将来的な活用を考える中で、カード化を推進した経過がある。これまでわからなかったことが明らかになることにより、参画される事業者にとっても有効活用を図ることができ、行政としてもより良い施策を見出すための機会となる。一過的なものにならないよう、継続的な活用方策を検討していく。

< 並河委員 >

ふれ愛カードへの入金の方法は。

< ものづくり産業課長 >

先に現金で支払うことによりポイントを付与することも可能であり、プリペイド式で先にチャージすることも両方できる。

< 並河委員 >

大型店では独自のカードがあるが、どのように利用すればよいのか。

< ものづくり産業課長 >

チャージしたカードでもって、大型店で利用いただくこととなる。

<産業観光部長>

今回のプレミアムカード事業は、ふれ愛カードかサンガ・かめまるカードのみを対象としたものであり、大型店等のカードは対象外である。ふれ愛カードは既存のもので使えるが、カードを持っていない方は、新たに無料でサンガ・かめまるカードを発行する。当該カードは期間中しか使えないが、今後の活用を検討する。

<藤本委員>

今後の活用を踏まえた素晴らしい企画であるが、ぱっと聞いただけではわかりにくく、他市に比べても目の前のお得感が伝わりにくい。どのような周知を考えているか。

<ものづくり産業課長>

確かにインパクトは弱いと感じるが、より広く多くの方に利用していただきたい。なお、先般、他の自治体ではオークションサイトに出品されたという不適切な事例等があったことから、現在では国の方からプレミアム率の見直しをすべきよう通知がなされている。周知については、商業者や大型店等それぞれのPRによりカバーしあうことにより、相乗効果を生み出し消費者に還元できるものと考えている。

<産業観光部長>

南丹市、京丹波町では先行型で実施されているが、大型店がない。それに対して、本市では大型店を対象にするかどうかの経過があった。紙ベースでは、過去の実績等を見るとほとんど大型店に入ってしまうことが想定されることから、消費者、商業者、行政とも喜べるような考え方に立った事業として、その一端を担えるものと考えている。

<藤本委員>

カード化により、子育て支援の面でどのような活用を図れるか。

<ものづくり産業課長>

今回のカード事業においては、上限額による制限等があることから、特に子育て世帯への付加等は考えていない。消費税増税に伴う臨時福祉給付金や児童手当等によりカバーされているものとして、消費者の消費喚起に重点を置いている。

<湊委員長>

当該事業に係る予算を認め、実際には商工会議所、商店街連盟、商業協同組合とも十分協議、調整されて決定されたものである以上、言えるものではないが、カード化に対しては地元では大変なブーイングである。事業形態によっては、端末機を入れにくい事業者もあるし、中々難しいというのが率直な意見であるが、よい方向に向き、少しでも本市での消費が進むよう鋭意取り組まれない。

～ 14 : 08

[ 産業観光部退室 ]

( 2 ) 行政視察の総括について

<湊委員長>

各委員からの報告を別紙に取りまとめたので、これに基づき委員会の総括をしていきたい。各委員より意見を求める。

<福井委員>

小田原市では、駅と小田原城が近接し中心市街地活性化によるコンパクトシティ化が進んでいるが、本市では4駅を中心とした都市核が分散しているので真似できない。ただし、街かど博物館の取り組みに関しては、本市においても取り入れることが可能であり、地域の方の連携を得てそのような取り組みをしていければと感じた。

< 藤本委員 >

小田原市は規模が大きいのでそのまま本市に取り入れることは難しいが、駅前の銅像や地下街等、今後参考にしていきたい。

< 湊委員長 >

御殿場市では大変多くの外国人観光客を見かけたが、小田原市、熱海市ではほとんど見かけなかった。特に熱海市では外国人は少ないが日本人観光客は依然として多く、その年齢層が高い印象であった。中国等の方からたくさん来られると風紀やまちのイメージが悪くなるという印象があり、日本人観光客が行きたくなくなるという感があるが、消費面では大きなメリットがある。

< 藤本委員 >

良し悪しの両面があるが、熱海市では今後、外国人に向けた方向性も持つとのことであり、やはり市長、副市長のリーダーシップに基づく施策展開には一番感心した。

< 齊藤委員 >

熱海市では、市長、副市長の経営感覚が市職員に植え付けられたように感じられ、民間のイメージを大いに受けたところである。現在では外国人が日本に来やすくなる環境整備が進んでおり、じわじわと日本の経済に効果が出てきている。政府のめざす2020年までの傾向として、この間、いかに外国人を取りこむかが勝負であり、当委員会としても積極的に取り組むべきである。東京オリンピックによる経済効果の何%かを本市に持ってこれるようめざしたい。

< 並河委員 >

熱海市は人口、面積とも小規模でコンパクトなまちであるが、観光都市として人口動態や位置等をしっかりと分析し、将来の動向を見据えた中で、地元の商店等に目を向け、磨けば光る観光資源として発掘し、皆がやる気になるよう応援し、行政も一緒に頑張るという姿勢が前面に出ている。お金をかけずに十分に取組みされていることに感動した。本市としても見習っていきたい。

< 福井委員 >

今回の視察3市を通じて、本市には戦略がないことを情けなく感じた。そのことを感想とする。

< 菱田委員 >

観光や集客を考えると、外国人に目を向けがちであり、東京オリンピックに向けた傾向があるが、その後に向けた戦略が肝要である。今回の視察を通じて本市の施策に生かせるよう取り組んでいきたい。

< 小島副委員長 >

3市とも立地条件が整っていることを最大限に生かされているように感じた。本市においてもインフラ整備が進んでいる中、立地条件を生かしていかなければ地域間競争により生き残れなくなる。今回の視察は大変勉強になった。

< 湊委員長 >

本市も、外から見れば京都のくくりの中にあり、よそからは羨ましがられる立場にあるが、観光客がいくら来ても、地元の商店等に還元されなければ何にもならない。本市にどれだけお金を落としてもらえるのかということを考えていかなければならない。それぞれいただいた意見に基づき、視察報告をまとめていきたい。正副委員長に一任願う。(了)

(3) 委員会の今後の取り組みについて

< 湊委員長 >

今回の行政視察、ただいまの意見等を踏まえ、観光協会との意見交換の実施を提案

したい。前回、平成25年2月に実施した経過があるが、参考人としての出席により、意見交換には及ばない内容であった。今回は市の執行部も含め、柔軟に意見交換を行いたいと考えているがどうか。

<福井委員>

テーマが必要である。観光戦略についてはどうか。

<湊委員長>

例えば、地産地消との連携や商店街活性化の面等、戦略にも色々ある。

<藤本委員>

海外からの誘客においては、京都府北部では「海の京都」として、舞鶴市はハブ化の戦略をもっている。丹波地方では、「森の京都」として、いかに観光客を呼び込めるかが大きな課題であり、広域連携、情報発信等を考える機会としてはどうか。

<齊藤委員>

観光で必要となるのは消費である。3大観光の中でも一番の消費を見込めるのは湯の花温泉での宿泊であるが、トロッコ、保津川下りでは嵐山で消費されている。本市で消費してもらうための交流・滞留型観光を考えなければならない。そのためには丹波国としてのイメージづくりが必要である。情報発信についても、ただでPRができるようなメディア戦略が必要である。

<菱田委員>

戦略を実行するのが観光協会と捉え、その戦略を練る行政と民間の力を発揮する観光協会をどのようにリンクさせていくかが重要であり、その観点からの意見交換となればと考える。

<湊委員長>

議会の立場としては、行政が補助をしている団体として、その補助に対するチェックであり、戦略について関わることも必要であるが、観光協会の事業に対して勝手に各委員が意見を述べてしまうとマイナスの結果となってしまう。そのあたりを十分留意するように。

<藤本委員>

熱海市ではトップのリーダシップのもと、メディア戦略が成功している。御殿場市では人口・面積が類似しているがアウトレットにより大きく飛躍している。何をもちって本市へ魅力とするのか、そこを明確にしておかなければならない。

<湊委員長>

この場で意見を述べるのはいいが、観光協会に対して述べることではない。

<齊藤委員>

他市の観光協会を見ている限り、一定、観光協会に対し提言することも必要である。丹波国としてのイメージ戦略はインパクトがありメディアにも取り上げられ、京都の隣の田舎として注目されるはずなので、ぜひとも提言したいと考えている。

<湊委員長>

フリートークを基本としたいが、組み立てとしては、イメージづくりとしての戦略についての意見交換とし、各委員の提言を述べる時間も設けたい。

<並河委員>

観光協会の会員は、会員としてどのような活動をしているのか。

<湊委員長>

ホームページ等で確認しておくよう願う。

日時についてどうか。

<事務局>

次回の月例会開催で実施する場合は、6月定例会閉会後の7月ではどうか。

< 湊委員長 >

7月13日以降でどうか。6月定例会の会期中に具体的に日時、内容等を決定していきたい。

< 齊藤委員 >

7月は地域こん談会が予定されていることから、6月29日、30日あたりで実施すればどうか。

< 湊委員長 >

それでは、29日又は30日で調整する。

### 3 その他

< 湊委員長 >

6月定例会の審査日程は議運で決定される予定であり、所管分としては、条例案1件の付託予定、また現在、陳情1件について意見陳述申し出の意向を聞いており、これらの審査を行う予定である。よろしく願います。

～ 14 : 50